

【奈良時代の疫病】

年	西暦	月	災異の記事	主なできごと・疫神祭・燃灯などの実施
和銅4年	711	5月	●疫病（尾張）	
和銅5年	712	5月	●疫病（駿河）	
和銅6年	713	2月 4月	●疫病（志摩） ●疫病（大和）	
神亀6年	729	2月		長屋王の変（左道による呪詛）
天平5年	733		●飢疫（平城京および諸国）	
天平7年	735	8月	●疫瘡（大宰府管内、夏～冬に豌豆瘡）	
天平8年	736	6月		聖武天皇芳野行幸（～7月）
天平9年	737	4月 7月	●疫瘡（大宰府管内諸国） ●疫病（大和・伊豆・若狭・伊賀・駿河・長門）	この年藤原四兄弟没
天平16年	744	12月		諸国に薬師悔過、金鐘寺と朱雀路とに灯1万坏を燃す
天平18年	746	10月		金鐘寺にて盧舎那仏を燃灯供養、15700坏余り
天平19年	747	4月	●疫病（紀伊）	
天平21年	749	2月	●疫病（石見）	
天平勝宝6年	754	1月		東大寺に行幸し、灯2万を燃す
天平宝字2年	758	11月		香山薬師寺にて千灯悔過
天平宝字4年	760	3月 4月	●疫病（伊勢・近江・美濃・若狭・伯耆・石見・播磨・備中・備後・安芸・周防・紀伊・淡路・讃岐・伊予） ●疫病（志摩）	
天平宝字6年	762	8月	●疫病（陸奥）	
天平宝字7年	763	4月 5月 6月	●疫病（吉岐） ●疫病（伊賀） ●疫病（摂津・山背）	
天平宝字8年	764	3月 4月 8月	●疫病（志摩） ●疫病（淡路） ●疫病（山陽・南海二道諸国、石見）	
神護景雲4年	770	6月 7月	●疫病（京師） ●疫病（但馬）	京師四隅・畿内十堺にて疫神祭
宝亀2年	771	3月		天下諸国に疫神を祭らせる
宝亀3年	772	6月	●疫病（讃岐）	
宝亀4年	773	5月 7月	●疫病（伊賀）	疫神を天下諸国にて祭る
宝亀5年	774	2月 4月		天下諸国にて読経、疫気を攘う 天下諸国に摩訶般若波羅蜜を念誦させる
宝亀6年	775	6月 8月		疫神を畿内諸国にて祭る 疫神を五畿内にて祭る
宝亀8年	777	2月		疫神を五畿内にて祭る
宝亀9年	778	3月		疫神を畿内諸界にて祭る
宝亀11年	780	3月 5月 12月	●疫病（駿河） ●疫病（伊豆）	京内における淫祀の禁断
天応2年	782	7月	●疫病	

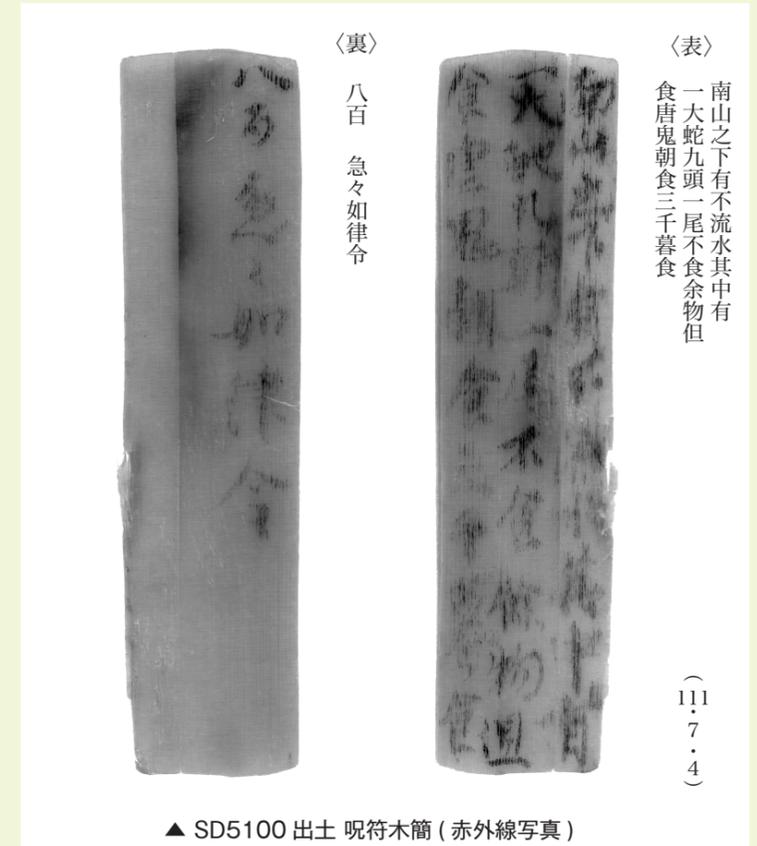
※ は天然痘であると思われる疫病（赤斑瘡・豌豆瘡）を指す。

平城宮跡資料館ミニ展示

古代のいのり - 疫病退散！

たくさんの人々が集まり、にぎわいをみせた平城京。ここには、日本全国から人が集まり、唐や新羅、渤海といった諸外国からも、たくさんの方が訪れました。

天平文化が花開いた時代、栄華を誇った平城京に、天然痘とみられる疫病がおそいかかりました。ことに、天平9年（737）には、平城京でも大流行し、時の権力者である藤原四兄弟（武智麻呂・房前・宇合・麻呂）の命を次々と奪ったことが『続日本紀』に記されています。発掘調査によれば、古代の人々は、この大災禍に、まじないや人形、土馬などを用いて立ち向かったことが明らかになっています。また、現代にも通じるような汚染された食器をまとめて捨てた状況や感染予防のための新しい生活様式も確認されています。今、新型コロナウイルス感染症とたたかう私たちに、平城京から出土した遺物たちは、多くのことを語りかけてくれます。



SD5100 から出土した木簡には、「南山のふもとに、流れざる川あり。その中に一匹の大蛇あり。九つの頭を持ち、尾は一つ。唐鬼以外は食べない。朝に三千、暮れに八百。急急如律令。」といった内容が書かれていました。唐鬼とは病気の原因と考えられていた瘧鬼を指すとみられ、九頭の蛇に瘧鬼をたくさん食べてもらおうとの願いを込めた呪符と考えられます。

もう1点の木簡は、SD5300 から出土した木箱の蓋です。内側に「此物能量者患道者吾成明公莫憑必退山陽道」と書かれていました。山陽道を去れといった部分や「患」という文字から、西から迫り来る流行病を退けようとする呪符と考えられています。



天然痘の犠牲者



▲ SD5300 出土 墨書土器

「兵部卿宅」と書かれた土器片。SD5300 には天然痘で亡くなった兵部卿 藤原麻呂の邸宅で使われていた遺物が含まれていました。

感染予防



▲ SD5300 に捨てられた食器

まだ使えるほぼ完全なかたちをとどめています。天然痘の感染を防止するために使い捨てられた可能性が高いと考えられます。

再発防止



▲ SD5100 出土 灯明皿

天平 10 年 (738) 頃の燃灯供養に用いられたもの。天然痘禍が長屋王の祟りとおそれた光明皇后が長屋王を鎮めるためにおこなったものかもしれません。

目新しい医療?



▲ SD5300 出土 絵馬 (複製)

いまの絵馬と少し異なり、祭りや祈りに使ったと考えられています。筆遣いが巧みで、馬の筋肉の動きや表情などをリアルに表現しています。

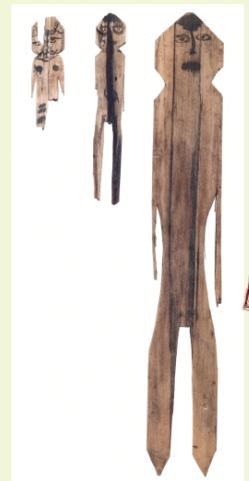
新しい生活様式



▲ 平城宮東方官衙出土 小型食器

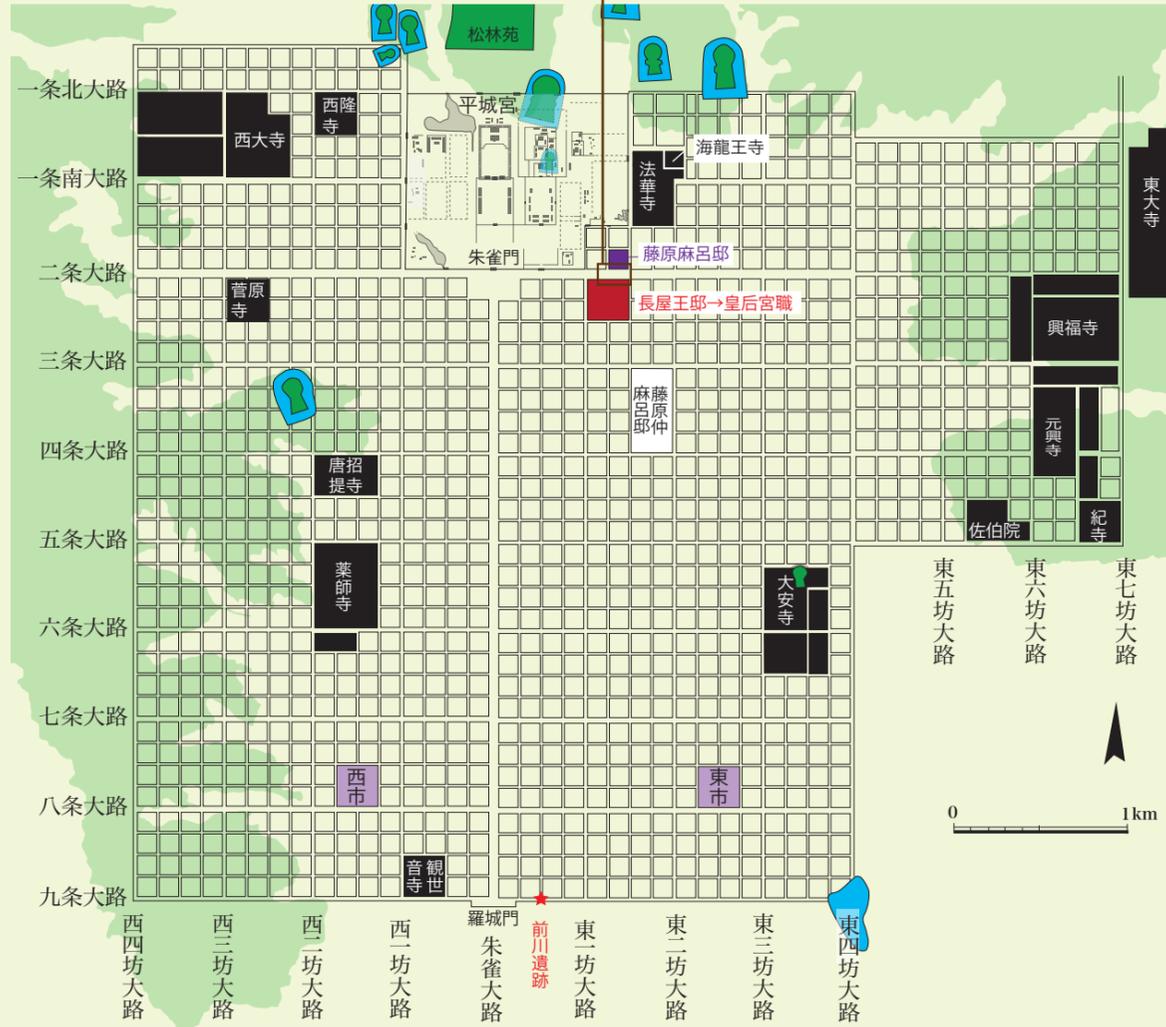
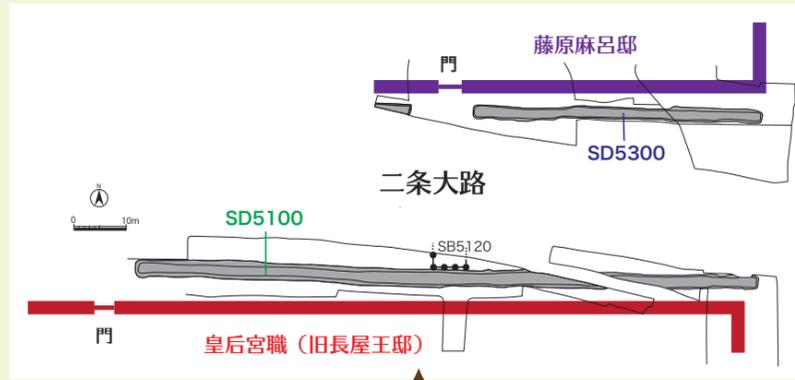
奈良時代後半になると食器は小型のものが多くなります。現代の感染予防策と同じで大皿での盛り付けを避けたのかもしれない。

伝統的な医療



▲ SD5100 出土 人形

祈りやまじないに使いました。罪・穢れや病気を移して川や溝に流したものです。古代の人々にとっては立派な医療行為だったのでしょ。



蔓延防止



▲ SD5100 出土 土馬

土で作った馬の焼きもの。病気をもたらす疫病神の乗り物で、疫病神が病気を広めないように、わざと脚を折って水に流したとも考えられています。

水際対策



▲ 前川遺跡出土の道饗祭に用いられた土器

道饗祭は、外からやってくる疫病神を接待して帰ってもらうお祭りです。平城京への進入路である大きな道路でおこなわれました。重要な水際対策だったと考えられます。